

留学生の異文化体験

国際交流センターは、留学生が日本の文化を学ぶ機会としてシリーズで事業を行っています。4月から茶道教室・いけばな教室・文楽鑑賞教室を行いました。教室に参加された留学生の感想文を一部紹介します。

SADO教室

It was very fun and interesting as it was my first time to see a tea ceremony! The wagashi was delicious. But there were so many rules it was difficult to remember them all.
Rini Hansanant (イギリス)

海外研修情報

夏季南京大学研修

昨年度は残念ながら催行されませんでした。今年度は夏季南京大学研修に学生6名が約1か月間、参加します。

既に渡航説明会(中国ミニ勉強会)が行われており、8月22日(金)から研修に出発します。研修の様子はおって紙面で報告します。



お点前を頂戴する留学生@茶道教室

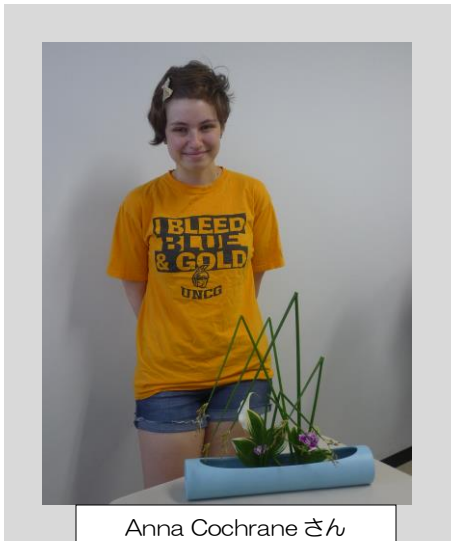
初めての茶道体験で、とても楽しかったです。日本の茶道はこんなにルールが多いとは知らなかったです。部屋に入る前、部屋に入った後に、礼儀や歩き方など、ルールがいっぱいでした。外国人にはちょっときついです。覚えるのが大変でした。でも先生はとても優しく、楽しい時間を過ごしました。自分でお茶を入れるのはやっぱり面白かったです。でも味がどうか、友達にお茶碗を渡す時は、とても心配になりました。和菓子を食べるのも初めてでした。和菓子は普段値段が少し高いから買えません。味は思った通りに美味しかったけれど、少し甘すぎるかも。和菓子を食べる時は無糖のお茶がとても必要だと思いました。今回の体験で一番きつかったのは正座でした。台湾には正座という習慣が無いので、たった

の15分だけで脚が痺れました！すごく痛かったので、「正座の時の脚の痺れを我慢できる日本人はすごい！」と思いました。いい経験でしたが、二度と正座は体験したくないです。
楊 雅年(台湾)

The tea ceremony was very elegant as was our teacher! Although it was a bit difficult to execute the steps correctly, it really showed me how skillful, mindful and passionate one must be to be involved in such an art form. From what I could interpret, as well as being elegant, the one major reoccurring theme throughout the process was respect. Respect for one another including the host, respect for food, and all-in-all respect for life. Even though my knees were in excruciating pain, I couldn't help but feel happy as soon as we had left the room. In other words, being in a tea ceremony has its own unique atmosphere that will surely have an impact on the way you see things!

Jasmine Ahmed (イギリス)

IKEBANA教室



Anna Cochran さん

いけばな教室に参加させて頂き本当に楽しかったです。梅雨をテーマにしたいけばなは蒸し暑い夏に涼しい風と雨を感じました。そして田中先生の「歴史を持つとしても持てない」という言葉を聞いて感動しました。日本は現代的な社会と伝統的な社会とが同時に存在するのは、本当に素晴らしいことです。グローバル化の中で自分の国の伝統的な文化をどう守っていくべきか、日本から学ぶところが多いです。いけばなは視覚的な美だけではなく、季節感や人の感情を表現できることが分かりました。このような良い体感をする事が出来て、本当にありがとうございました。また参加したいです。

青 華 (中国)

I really enjoyed the Ikebana class! I had a lot of fun and feel like I gained a new perspective on Wabi Sabi culture and an enlightenment in regards to Japan's intimacy

with nature! I never felt like I didn't understand. It definitely transcends a language barrier. Thank you for the fun memory.

Claudia Jasso (アメリカ)

いけばなはとても綺麗な日本文化です。色々なことを習いました。例えば、いけばなをする時の立体感の作り方を学びました。先生のように、綺麗ないけばなは作れないですが、自分の好きな様に作って楽しかったです。それに、いけばなの全部の作品に意味があるので、見ていると色々な感想が出てきます。いい経験だったと思います。

黄 薇 (台湾)



黄 薇さん

BUNRAKU教室

文楽はとても素晴らしいです。人形もきれいだし、動かす芸者も上手だし、演劇の内容も有意義です。色々な日本文化の活動を通じて、書類上だけでなく目で見て、自分で体験することができます。日本の文化を研究すればするほど日本が好きになります。

Duong Van Chi (ベトナム)

浄瑠璃は日本の伝統芸能の一種であります。今回の機会を通じて、初めて直に浄瑠璃を拝見しました。そして、とても深い印象を受けました。浄瑠璃の舞台は、太夫と三味線による義太夫節と人形の動きが一体となって生ま

れます。解説によって、それぞれの技芸員の役割が大体分かりました。その中で、一番深く印象に残っているのは、太夫さんです。太夫さんと三味線さんが段の最初から最後まで演奏し、大変お疲れ様でした。そして太夫さんが演奏の始まりに、両手で台本をあげて、台本に敬意を表す態度に感服しました。そのほか、舞台の立派さ、人形使いの技芸員たちの暗黙の了解に深い印象を与えられました。太夫と三味線と人形が一体化している浄瑠璃は、やはり素晴らしい日本の伝統芸能だと思います。

肖 小月 (中国)

【今後の留学生の為のイベント予定】

8月8日(金)には、学生交流体験旅行「むすびの旅」地引綱大会@泉州岡田浦漁港が実施されます。また後期にも、留学生の為のいけばな教室、茶道教室を行う予定です。

今回大阪に行って文楽を見る前、全く文楽について知らなかったが、開演前文楽入門という展示を見ながら、文楽の歴史を知ることができて、文楽鑑賞が少し分かり易くなった。しかし日常会話とは違う文楽の言い方のため、結果的に劇の内容を理解するのは無理だった。けれども、劇に使われる人形の精密さや自然な動きには感心した。そして、一つの人形を3人以上の人たちが、呼吸を合わせて完璧に演技するのを見て、非常に驚いた。日本の伝統芸能を見ることができて、本当に良い経験だった。

陳 效娥 (韓国)

文楽は日本の重要な無形文化財です。この伝統芸能は素晴らしいです。三人で一つの人形を操って、人形が人の様ないきいきとした動きをします。

この上演は面白いけれど、実際に芸能者はたくさん練習をしなければなりません。私はこの協力して達成するパフォーマンスに感心しました。日本で勉強している間に、日本語だけでなく日本の文化も感じられます。幸せなことだと思います。

李 倩穎 (中国)

先月、初めて文楽鑑賞に行ってきました。文楽自体は教科書で見た覚えがあり、人形がとても綺麗だけど、古いというイメージしか残っていませんでした。だからこそ、日本に来てから、自腹で国立劇場まで足を運ぶ気がなかったと言うのが正直なところ。しかし、日本の伝統的なもので、ユネスコにも登録されているものだと考え、現物を見ました。百聞は一見にしかずという言葉がありますが、まさにその一言がピッタリでした。素人向けに詳しく解説してくれたり、字幕を使って説明してくれたので、とてもわかりやすかったです。太夫さんが独りですべての役の声を演じるのは非常に面白かったです。最近世に名を知られる日本の声優の始まりが太夫さんかなと感じました。最後に「卅三間堂棟由来」を見ながら、何回も文楽のすばらしさに感動しました。人形の動きや声や台詞、三味線の音すべてが一つの世界を作り出しているように見え、見れば見るほど、ますます物語の中に落ちていくように感じました。今後も素晴らしい伝統芸能に触れていきたいと思っています。

安 姍姍 (中国)



国立文楽劇場前にて

学習イベント：英語「を」→「で」勉強する力



イベントの様子

6月25日、27日の16時20分から、国際交流センター 特任助教 雲島知恵先生の担当で、『英語「を」→「で」勉強する力』というタイトルの英語圏留学レベルの英語力をを目指す学生のための学習イベントを開催しました。自分ひとりでも学べることを目標に、オンライン教材の紹介、フォニックスの説明、語源を活用しての語彙力強化法、及び座談会を行いました。両日とも参加者10人程度と少人数でのイベントとなりましたが、その分、打ち解けて、海外留学に馳せる思いや英語を学習する上での悩みを分かち合う良い機会になったのではないかと思います。

(国際交流センター主催・文学部横山研究室共催)

自己紹介：雲島 知恵

2014年4月より国際交流センターにて特任助教として働かせていただいています。学位取得のため数年間海外に出た後、母校に学生としてではなく教員として戻らせていただきました。私自身の経験を基に、これから海外留学を目指す学生の応援、また異国で学ぶ留学生の支援に頑張ります。よろしくお願いいたします。

お茶の水女子大学間提携イベント「平和構築とジェンダー」参加者の声

お茶の水女子大学グローバル協力センター
大学間連携イベント

「平和構築とジェンダー」



6/28
(土)
13:00~17:00
お茶の水女子大学
大学本館 103 室

講義を通して1番印象に残っていることは、戦略として性暴力が武器の役割を果たしている、コミュニティ全体を破壊させるということだ。女性が性暴力を受けることで、その女性は精神的トラウマを抱える事になる上に、社会的に孤立したり疎外されたりするようになる。その女性の夫は、自分が妻を守れなかったと自分を責め、自尊心が傷つき士気が低下する。また、その家族は、性暴力を受けたひとのいる家族だとみなされ、地域の人々から冷たい目でみられる。このように、敵対集団の女性を陵辱することで、敵対集団のコミュニティ全体を崩壊させるというものだ。それが戦略として成り立っていることに衝撃を受け、また、人間の精神面にも攻撃をしてくることへ

の恐ろしさを感じた。紛争と聞くと、迷彩柄の服を来て、銃を持った兵士が村に押し入って人々を攻撃する、といったイメージしか持っていなかった。しかし、性暴力を含めた紛争が長期化し、崩壊したコミュニティの中で、被害者や加害者が社会復帰することが難しいという現状があることを知ることができた。

紛争やジェンダーに基づく暴力に関して無知に近かったが、今回の講義や演習を通して、それらに関する現実の一部を知ることができた。また、平和構築というのは、紛争後の社会において人々を支えていくことであったり、紛争を未然に防ぐための仕組みを作ったり、人材を育成したりすることでもあるという考えを自分の中に取り入れられたこともよかった。世界で起きていることを知っておかなければ、支援に関する広告を見かけても目に止まらないだろうから、知らなかったことを多く学べて有意義な時間を過ごせたと思う。

理学部情報科学科 2 回 山田祐子

JENESYS2.0 フィリピン学生団 国際交流会

5月29日(木)午後1時半から4時半まで、日本政府主導の国際青少年交流事業 JENESYS2.0 の一環で奈良を訪問したフィリピン学生団 26 名と本学学生 21 名が交流会を行いました。学内見学と記念館講堂での日本とフィリピンと交流史の講義の後、本学サークル HUA、TEAM 奈良女のメンバーを中心とする学生企画で、「防災と災害復興」のテーマの下、防災ゲーム、両国の災害と災害対策に関するディスカッションで盛り上がりました。始終笑顔が絶えず、最後には別れを惜しむ学生らが連絡先を交換するなど、今後の個人レベルでの国際交流を予感させる良い交流会となりました。



各班のプレゼンテーションの様子

センター来訪者 5月16日(金) JICA 関西所長 築野元則氏

「異文化理解と国際協力」の授業の一環で、JICA 関西所長 築野氏にお越し頂き「JICA の現場から一女子大生に期待すること」の講演会を開催致しました。JICA の概要やベトナムにおける事業等についてお話を頂き、約 120 名の学生が参加しました。

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER

2014 年 7 月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/>

編集後記 4 月から国際交流センターのスタッフとして働き始めました。アメリカに数年滞在しておりました。これから留学を目指す方や、奈良女の留学生の応援をしていきたいです。NEWSLETTER は、学生さんの声をもとに作成しております。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。 編集者：Yoko Sen